



市整会 会報

大阪市立大学整形外科開業医会

No.45 2011年1月10日発行

(医)頼整形外科クリニック
〒591-8004 堺市北区蔵前町3丁2番8号サンロード1F
TEL072-250-3211 FAX072-250-3222

巻頭言

新年明けましておめでとうございます。

平素は市整会発展の為、御指導御協力を頂き感謝申し上げます。

又、役員の方には、年間を通じ総会、学術講演会、文化講演会、家族会、ゴルフコンペ等の立案、運営に御尽力を頂きました事に御礼申し上げます。

さて、昨年の診療報酬改定は病院に厚く、儲かっている(?)開業医には厳しくといった結果になりました。現に整形外科のクリニックでは患者数・レセプト枚数は増えているのに薬価改定・再診療の値下げ等により減収になっているところもあると聞いています。御座成りの医療経営実態調査、マスコミを利用した開業医いじめは相変わらず。

医療の崩壊、勤務医の疲弊が大々的に報じられ地域医療に貢献している我々開業医の立場は、無視されたままだといえます。勤務医、開業医は病診連携を通じ、共に地域住民の健康を守る為に努力しているのであって、同じ医療職として区別されるものではないと考えます。朝から晩まで医療費削減政策を考えている官僚には、なかなか太刀打ちできないかもしれませんが、医療の専門職として国民を味方につけ、理解を深めていくよう行動しなければならないと思います。

政権交代後の現民主政権は新聞テレビ等のマスコミの報道を見る限りでは非常に稚拙で沖縄の米軍事基地問題、尖閣諸島、北方四島等、アメリカ、中国、ロシアを相手にした外交に限らず、国内問題の対応を見るにつけ口先だけで実行を伴わない政治のあり方に不安を感じます。高齢化社会を迎えるこの国の医療行政をきちんとやってくれるの

市整会副会長 楯 憲一郎

でしょうか。前自民政権時代は、我々も野党時代の菅総理のように批判だけしていればよかったのですが、政権交代のおかげで少しは政治に関心を持ち日本の将来を考えるようになったのではないのでしょうか。

ところで医療政策に関して我々整形外科医は、この高齢化社会の中、国民が健康で快適な生活を過ごす為、何をなすべきか何を提言すべきか。ひとつは日本整形外科学会より提案された「ロコモティブシンドローム」があります。昨年、市整会では、東京大学の中村耕三教授をお招きして「ロコモティブシンドローム」について講演していただきました。

「メタボリックシンドローム」や「認知症」に比べ全国的には、まだ認知度が低いのですが「メタボ」や「認知症」より素人でも、外見上ある程度判断ができ理解されやすいと思います。啓蒙活動をより一層進めることで内因性疾患、認知症の発症を少しでも抑えることにより、健康な生活を維持し、又国民総医療費の軽減にも寄与できるものと考えます。

整形外科医が運動器疾患の対応のみならず、専門外の領域との連携を進める事も大事な要素であり、運動器疾患の予防は全て疾患の発症にも関連している事を全医療従事者にも啓蒙し、より認識を深めていただく事が我々整形外科医の役割だと思っています。

平成24年には医療保険、介護保険の改定が予定されています。

現在、在宅にとシフトしている厚労省はどのような結論を出すのでしょうか。リハビリ等は介護

保険の絡みもあり、かなり厳しいものになるかもしれません。我々、開業整形外科医にとっては、消炎鎮痛処置がなくなり、外来診療がマルメになるといった案もでているようです。

医療保険上、整形外科医の専門性をいかに国にアピールできるか、我々一人一人が考えねばなら

ない転換期に入ったように思います。今後我々を取り巻く医療情勢は益々厳しさを増しそうです。市整会では本年も会員の皆様に役立つよう講演会等、多数の行事を予定しています。

多くの先生方のご出席、宜しく願い申しあげます。



平成22年度市整会家族旅行

～京都・伏見 行～

西澤 徹（昭和62年入局）

市整会家族旅行3回目の幹事となる安田浩成先生の、誠に時宜を得た企画「龍馬が駆け回った京都を巡る」に我が家は一も二もなくとびついた。

「龍馬伝」も佳境に入った。龍馬は立憲君主制のような国体を目指していたと思うのだが、どうもこのドラマ、共和制を支持するような台詞が多く、少々鼻白むところがある。また役者がこれほど涎を垂らしてしゃべるのも珍しい。いろいろツッコみつつ初回から欠かすことなく家族そろって視聴しているのであった。

「参加希望者が少なく」と心配してらしたのだが、どうしてどうして総勢43名の大所帯である。

昨年は定期試験の只中でチキンラーメン製作がかなわなかった娘二人だったが、結果はともかく試験後の開放感を味わいながら、うきうきとバスに乗り込んだ。そして誰よりも張り切っているの

が、我が愚息「ポニョ男」であった。興奮しすぎて熱発するのではと気が気でない。長田先生の孫娘・和田莉奈ちゃんと1年ぶりの再会である。幼稚園に入園したとのこと。すっかりお嬢様に。ポニョ男ちゃっかり通路を挟んで隣の席を確保している。「きのこの山」をプレゼント。お返しにえびせんをもらって、「おいしい！」と叫んでる。エビは苦手とちゃうんかい！

第2京阪自動車道が完成して、京都は近くなった。ICを降りれば最初の目的地伏見である。造り酒屋の黒い壁が長く続く。その格子窓からは湯気が立ち上る。

まずは「お酒の王様月桂冠♪」の大倉酒造・記念館へ。酒造りの今昔を学ぶ。ポニョ男は莉奈様の手をとり、エスコート。誰に似たのか！私は当然利き酒を。"記念館限定"純米大吟醸を購入す

る。広大な敷地に、蔵元はどの地方でも地元の名士であることを改めて実感したのであった。

少ない時間を利用して、近くの黄桜酒造で利き比べした御仁もおられた様子。

続いて、竜馬ゆかりの「寺田屋」へ。すっかり観光名所になって、開館前から行列。京都市が明治後期に再建したものと結論付けているし、経営者もお登勢とは何の関係もないのだが、それはそれ「刀痕」なるものもなでしてみる。あまりに大勢の入場者に、床が抜けるのではないかと心配になる。ポニョ男はすっかり莉奈様の兄上の知哲（ともあき）君になつてくつついている。

ドラマのように寺田屋の裏とはいかないが、すぐそばの宇治川派流の船着き場から三十石船に乗り込む。やや大粒の雨が降り出す。濠川に入り宇治川につながる三栖閣門までのんびりクルーズ。船に乗るといのは時の流れが変わって旅情が増す。もう少し自治体に工夫があれば。これは大阪も同じか。

昼食会場の「京大和」へ。幕末の志士も会合をもった場所である。ミナミの大和屋は閉じたが、こちらは健在である。文化の懐の深さの差か。

山門をくぐると、見事な庭が。木々も色づき始めている。後日ある番組で、芸妓さんが「一番印象に残っている紅葉は京大和の紅葉」と話していた。斜面を利用していくつもの建物が山荘のように並ぶ。二階の大広間に入る。大きくとった窓から正面に八坂さんの五重塔が見える。見事な眺めである。

やや中途半端な高さの大ぶりの椅子に腰かけ、会席料理に舌鼓。銘柄は不明ながら、上品な燗酒

と眼に鮮やかな料理が舌の上で結ばれる。最高だぁ！ワインとのマッチングを楽しんでいる卓もあり。人、料理、酒、空間の奏でるハーモニーが素晴らしい時間を作りだした。

大人の歓談は続くのだが、子供たちは益々元気だ。数年前「アイドルになる」と宣言した、吉川先生のお孫さんの小林知世ちゃんはすっかりおねえちゃんになった。奥田先生のお孫さんの安藤祐衣ちゃんと仲良く遊んでいる。黒田輝顕君はポニョ男に興味津々、来年は幼稚園かな。その弟佳顕君は6ヶ月で参加だ。

「先生の僕ちゃんが、バギーに乗せられて参加したのを覚えてるわ」黒田先生がしみじみ。そうだ家族会は年1度、子供たちの成長を確かめ合える場でもある。滔滔と流れる時間を強く感じたのも、この土地のなすことか。

火照る身体で雨の京都市街を見降ろし、幕末からさらに千年昔へと思いを馳せたのであった。

雨脚が強まる中、霊山歴史館へ。ここは唯一の幕末維新の専門歴史館である。龍馬ブームもあってか、大勢の観覧者だった。司馬遼太郎先生の述べる革命第1期、第2期の志士達の紹介。維新回天を成し遂げたとはいえ、無念の思いだろう。今の日本の惨状を見れば、彼らはどう感じるだろう。

「この国難の時代に、日本人は再び狂を発するののか」

帰路のバス、酔いながらも妙に冷やりとした頭で思い続けた。

難波に到着、雑踏に放りだされ現実に触れる。

「日本の夜明けは来ないぜよ」



(4)

第19回 市整会ゴルフコンペ

豊川 英樹 (平成1年入局)

平成22年12月12日、晴天無風の中、30名の先生方に参加頂き、泉ヶ丘カントリークラブで開催しました。例年以上にグリーンが速く、右往左往して調子が出ない先生が多い中、見事優勝されたのは「用事があるのでお先に失礼するわ。」と会食前に帰られた片上善嗣先生でした。今回、辰巳一郎先生、金井秀彰先生に初めて参加頂き、幹事として嬉しく感じました。また、何度もFAXを頂きサポートして下さった楯憲一郎先生、当日お手伝いしてくれた森川献志漢先生、戸堂慎一先生には深く感謝いたします。

さて、次回は第20回の記念大会となります。「ゴルフ好きやねん。市整会好きやねん。」と、楽しい会になるよう企画致しますので、来年もよろしくお願い致します。

ドラコン：森北育宏先生 頼 功先生

ニアピン：秋野一男先生 荒木良守先生 原好延先生 吉田研二郎先生

順位	氏 名	葛 城	岩 湧	GROSS	HDCP	NET
1	片上 善嗣	47	45	92	22.8	69.2
2	豊川 英樹	39	39	78	4.8	73.2
3	森北 育宏	43	40	83	9.6	73.4
4	天野 祐一	50	56	106	32.4	73.6
5	林 正樹	46	43	89	14.4	74.6
6	原 好延	47	48	95	20.4	74.6
7	荒木 良守	47	48	95	20.4	74.6
8	楯 憲一郎	50	50	100	25.2	74.8
9	安田 浩成	52	48	100	25.2	74.8
10	喜馬 秀樹	45	43	88	12	76
11	田中 直史	47	47	94	18	76
12	山下 豊	58	51	109	32.4	76.6
13	辰巳 一郎	55	52	107	30	77
14	中野 博友	50	49	99	21.6	77.4
15	秋野 一男	48	63	111	33.6	77.4
16	古瀬 洋一	50	53	103	25.2	77.8
17	中村 薫	55	49	104	25.2	78.8
18	金井 秀彰	51	58	109	30	79
19	西口 豊憲	53	60	113	33.6	79.4
20	頼 功	48	52	100	20.4	79.6
21	南平 克積	45	53	98	18	80
22	中本 達郎	61	56	117	36	81
23	鳴嶋 真人	56	61	117	36	81
24	吉田研二郎	58	52	110	26.4	83.6
25	戸堂 慎一	63	55	118	32.4	85.6
26	中洲 裕	68	56	124	36	88
27	吉川 秀明	64	61	125	36	89
28	森川献志漢	75	63	138	36	102
29	藤原 良江	77	76	153	36	117
30	阪本 邦雄	83	71	154	36	118

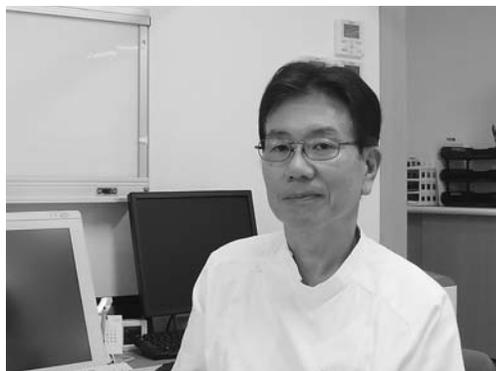
競技方法：ダブルペリア

新入会員紹介

自己紹介

ながはま整形外科 長濱 信一（昭和59年入局）

はじめまして。平成21年5月に大阪市旭区で開業しました長濱信一と申します。以前より市協会のごことは存じておりましたが、このたび開業を機会に入会させていただきました。私は大阪市立大学整形外科教室同門会の名簿では「長浜」で登録していますが、今は戸籍上の「長濱」で医師会に登録していますので「長濱」が正式な名前となります。しかし「濱」は難しい字であり、「浜」でも「濱」でも郵便は届きますのでどの字で覚えていただいても結構です。今までの略歴を自己紹介させていただくと、私は昭和59年に大阪市立大学医学部を卒業し、学生時代はろくに勉強もせずテニスに明け暮れておりました。卒後は整形外科医局に入局し2年間の大学病院での研修の後に大学院に進み、第二病理学教室の嶋崎教授のご指導の下、破骨細胞のモノクローン抗体を用いた免疫組織化学的研究で博士号をいただきました。その後丹後半島にある弥栄町国民健康保険病院、豊中市にあった林病院で勤務しましたが、林病院時代には多くの骨折や脊損などの手術を経験させていただき、また2年目からは島津先生も教授を退官されて赴任してこられたため色々のご指導を賜るなどして、この時期は私の臨床医としての基盤を



作られた時期と思っています。次の公立忠岡病院では脊椎外科や関節外科などいろんな分野の手術を行い何が専門かわからないことをしていましたが、卒後15年を越えてからは人工膝関節手術を中心に手掛けてきました。人工関節はすっかり痛みが取れて患者様に喜ばれる手術ですので、開業した今でも痛みの強い方には勧めています。そして財政危機で公立忠岡病院が廃院になる頃から開業を考えるようになりましたが、手術に未練もあり開業が真剣に考えられなかったのでそのままアクションを起こすことなく浅香山病院に転勤することになりました。浅香山病院は精神科主体の病床数1000床を越える大病院で、皆さんあまりご存知ではないかもしれませんが循環器内科や消化器内科をはじめとする一般科も充実しており、赴任当時は大学の同級生が部長クラスで私の他に3人勤務していましたので何でも相談ができ非常に仕事がやりやすい環境でした。しかし病院勤務は御多分にもれず多忙であり時間外診療や会議などの雑用も増えてきたために、自分の時間が作れなくなってきたことが開業するきっかけとなりました。病院を辞める際に



(6)

は、研修医制度が変わってから大学医局への入局者が激減したことにより医局自体が慢性の人手不足の状態、私の後任医師が派遣されずに病院には非常に迷惑をかけることとなりました。当時同級生の一人が病院長になったばかりでしたので彼にはかなり強く引き留められました、結局大学からパート医師を派遣してもらい私自身も手伝いに行くことで何とか話がおさまりました。私が大学に入局した当時、整形外科は非常に人気があったので毎年20人近くの入局者がありいつ医師過剰時代が来るのかと心配していたのが、最近になって逆に医師不足時代となったことが不思議でなりません。でも大阪市大だけではなく全国的に大学医局は人材不足らしくそのあおりを受けた形となったようです。こうして何とか開業することができ、今はまだ患者数がそれほど多くないこともあります。自分のペースで診療できるようになり、勤務医時代と比べてかなり精神的ストレスが少なくなったように思います。また私はマラソンが趣味ですので、時折昼休みにクリニックの近くにある淀川の河川敷を走って気分転換をしています。30歳代後半から中年太り防止のために始めたのですが、今は市民マラソン大会に出たりもし

ています（それでもメタボ体型になってはいますが・・）。淀川は非常に良い景観で天気の良い日などは走っていると清々しい気分になります。ゴルフも大好きで今でも弥栄病院時代一緒だった他大学の先生方とゴルフで集まったりもしています。ハンディキャップは現在10で、開業してからは競技ゴルフにもよく参加するようになり最近では己の実力の無さを思い知るようになりましたが、懲りずに頑張っテシングルを目指そうと思っています。

開業して早いもので1年半以上が過ぎ、馴染みのない土地で右も左もわからないままやってきましたが、何とか無事に立ち上がったかなというのが現在の感想です。旭区は大阪市内といってもそれほど都会ではありませんが、近隣には大阪市立総合医療センターや関西医大があり医療環境には恵まれています。今は勤務医時代よりも時間の余裕ができて医学書を読む時間も増えましたし、できるだけ研究会にも参加していきたいと考えています。患者にとって最適な保存的治療のできる整形外科医を目指したいと思いますので、今後も市整会の皆様におかれましてはご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

自己紹介

久米田外科整形外科病院 柴田 敏弥（平成2年入局）

日ごろは市整会の先生方にはお世話になり有難うございます。市整会の研修会には会員でもないのに以前から参加させて頂いていましたが、今年入会のお誘いを頂き会員にして頂いた次第です。

平成2年に久留米大学卒業後、市大整形外科に入局、関連病院、大学病院で研修後、山野先生が退官される直前に親元の久米田外科整形外科病院（岸和田市）に行くように言われ今に至ります。大学病院勤務時代は現教授の中村先生のスパイングループにお世話になりました。大学院の4年間は第一生理学教室で電気生理、破骨細胞の研究をさせて頂きました。今は特別何をしているということもなく日常診療に明け暮れています。大学病院、関連病院とは違い町の一般診療では患者さん

は整形外科という診療科に関係ないような症状まで言われ、他科の知識も少なからず必要であることに気づかされます。またただ治療すれば良いのだと思っていましたが患者さんとの多少なりとも雑談を交えたお話でのコミュニケーションも大切だと気づかされました。真はどうであれ、関心を示してあげることが必要なのでしょうか。世の中相手は誰であれ話を聴くのは面白いです。世の中色んな人がいますね。

趣味はアマチュア無線（第1級アマチュア無線技士）です。中学生の時からしています。ゴルフをされる先生が多い中お付き合いできなく申し訳ありません。一昨年、医師アマチュア無線連盟というクラブに入会しました。会員は百数十人いま

すが整形外科は私一人だけで、“整形でアマチュア無線とは珍しいですね”と言われました。しかし先日アメリカから来日した有名なアマチュア無



線家とお会いする機会があり、お話をしていると其の方は整形外科医でした。4年に1度の医学会総会では総会の記念局を運用するよう来年は東京の会場で行われます。私も参加する予定です。もし総会に参加される先生がおられましたらお声掛けください。最近少しはスポーツもしなければと思い、無線機片手に登山を始めました。今年はブームに乗って富士山に登ってきました。勿論アマチュア無線をする為の登山です。

その他先にも触れましたが、大の鉄道マニアでもあります。通勤は勿論電車です。ラッシュは嫌ですが今普段乗っている車両の隅々を見渡し、車両だけでなく駅舎、ホームを見渡すとその鉄道の歴史を発見できます。物思いにふけながらの電車通勤は楽しいものです。

医師になり20年余り経ちました。まだまだ医師としても人としても未熟です。今後会の行事には積極的に参加し会員の先生方から多くのことを学ばせて頂きたいと思えます。宜しく願いいたします。

自己紹介

マツオ整形外科 松尾 澄治（平成10年入局）

この度、大阪市大整形外科開業医会に入会させていただきました松尾澄治です。平成10年に市大整形外科医局に入局し、市大病院、大阪社会医療センター、大阪市立総合医療センターで研修させていただきました。その後引き続き大阪市立総合医療センターに研究医として勤務し、和歌山の白浜はまゆう病院を経て、平成18年に大阪へ帰り、父(澄正)が院長を務めるマツオ外科を手伝いながら、育和会記念病院に勤務しておりました。退職後、診療所の継承を機に「マツオ外科」から「マツオ整形外科」へと名称を変更し、現在に至っております。

父が「マツオ外科」として現在地に開業して、約50年になりますが、今後とも地域の患者様に喜んでいただけるよう、努力していきたいと考えております。

先輩諸先生方、どうぞご指導ご鞭撻の程、よろ



しくお願いいたします。

(8)

〒551-0031

大阪市大正区泉尾3丁目4番12号

☎06-6551-7800

マツオ整形外科 松尾 澄治



自己紹介

寺田町整形外科 片岡 威博 (平成14年入局)

このたびは市整会への入会を承認していただき有り難うございます。

当院は地域医療に貢献することを基本理念とし、在宅支援診療所として活動しています。看取りや緩和ケアを行い、通院が困難な患者に対する訪問診療なども積極的に対応しています。さらには、地域に対する救急医療の充実を図ることを目的として地域の病院と連携し、時間外や夜間、休日の診療に対応しています。

大阪市天王寺区に整形外科医院を開院し1年半が経過いたしました。この1年半で勤務医時代では経験しえなかった様々な問題に直面いたしました。

医師不足による救急医療の崩壊、高齢者医療制度による医療費の患者負担の増加、貧困層に対する不必要な医療や介護の提供（貧困ビジネス）、核家族化による独居高齢者の増加、不完全なままの介護保険制度など、その他数えきれないことが社会問題となっております。勤務医時代にもそのような問題に直面することもありましたが、開業をして地域医療を中心に活動することによって、毎日のようにこのような問題に直面し、解決策に

難渋しています。

高齢化した日本社会に課せられたこのような社会問題を解決するために何をすべきか、日々熟考し、行動したいと考えています。その中で、整形外科医に対する社会的役割は非常に重要であると実感しています。他科の医師と比較すれば、整形外科医は、脳梗塞後遺症の寝たきりや、悪性腫瘍の末期など、積極的な医療を必要としない患者、疾患自体からの回復の見込みの無い患者に対しても、ADLの向上のために何らかの加療を提供でき、また、明るく前向きな意見やアドバイス、心構えなどを提供できるように感じます。整形外科医は患者の日常生活の活動性や疼痛を指標として診療をすすめる傾向にあります。したがって、疾患や疾病に対応するだけではなく、日常生活や社会的背景、家庭内環境をより考慮し、真の総合診療を提供することが可能です。

このような特性をふまえ、将来的には整形外科医を中心とした医療チームを作り上げ、診療を提供できるよう図りたいと思います。

今後とも御指導のほど宜しくお願い申し上げます。

自己紹介

整形外科ひろクリニック 鞆 浩康（平成14年入局）

西成区天下茶屋で『整形外科ひろクリニック』を開業している鞆浩康です。

平成11年に高知医科大学を卒業し、岸和田徳洲会病院で3年間研修後、大阪市立大学医学部附属病院で研修をし、芦原病院、貴島病院、山本第三病院で勤務し、開業しました。勤務医の時はスポーツ・肩関節を中心に勉強をしてきました。現在もダイナミックスポーツ医学研究所の大久保先生・大槻先生の御好意によりバレーボールのチームドクターをさせて頂いています。その他、アメフトXリーグのチームドクター、ボクシングジムの顧問医師などをさせて頂いています。その経験を生かし、理学療法士、スポーツトレーナー、その他の手技療法者により、リハビリ、トレーニングを中心とした施設を目指しています。

まだまだ、未熟で諸先輩方にはご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



自己紹介

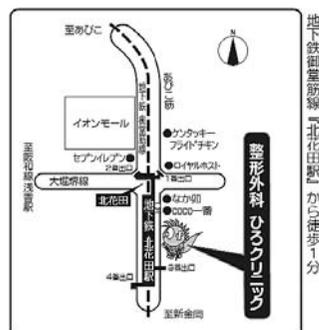
整形外科ひろクリニック 中尾 佳裕（平成14年入局）

本年の4月1日より、堺市の北花田にて『整形外科ひろクリニック』を開業し、市整会に入会させて頂いていた、中尾佳裕です。

大阪市立大学医学部附属病院で研修をし、その後市立吹田市民病院にて人工関節・外傷の勉強をさせて頂いた後、大学院に戻りました。大学院では、臨床では肩関節を、基礎分野ではPTHの作用機序についての研究をさせて頂いておりました。その後、山本第三病院にて、外傷および肩関節鏡手術を中心に行っておりました。

まだまだ、未熟で諸先輩方にはご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく

お願いいたします。



ザックJAPAN!!

木下 裕介 (平成7年入局)

新年明けましておめでとうございます。木下裕介です。旧年中は公私に渡り御指導していただき誠にありがとうございました。本年も旧年同様よろしく願申し上げます。さて新年早々誠に申し訳ありませんが今回もサッカーのお話にお付き合いしていただければと思います投稿させていただきました。

南アW杯は、優勝スペイン・準優勝オランダでした。この2カ国は世界が認めるサッカー強豪国で、W杯の度に毎回優勝候補の一角に挙げられるのですが、優勝経験がなかったため「やっと来たか!」という感じで観戦しました。試合内容も延長の末スペインが競り勝ちすばらしいものでした。

日本も決勝トーナメントに進出し日本サッカー界にとっては、歴史に残る大会になったように思います。

W杯が終了し岡田監督が退任され、代わりにイタリア人のザッケローニ監督が就任しました。ザッケローニ監督はイタリア国内で、ミラン、ラツィオ、インテル、ユベントスなど楚々たるクラブチームの監督を歴任しミラン時代にセリエAで優勝経験を持ちますが、国外クラブチームの監督や代表チームの監督をするのは初めてです。

ご存知のようにサッカーは1人のゴールキーパーと10人のフィールドプレーヤーで戦います。この10人のプレーヤーをどの位置に配置するかで攻撃的なのか守備的なのか知る事ができ、このポジションの取り方の事をシステムといいます。今の世界の主流は4-4-2システム(4人のディフェンダー、4人のミッドフィルダー、2人のフォワード)で3-5-2システムや4-3-3システムでは攻撃的な布陣となり、4-5-1システム、3-6-1システムでは守備的となります。実際南アW杯で日本は4-5-1システムで守備的でした。

ザッケローニ監督は、イタリアでは4-3-3システムを採用していたようで、攻撃的な戦術といえます。10月8日に埼玉でアルゼンチンと10月12日にソウルで韓国と親善試合を行いアルゼンチンには1-0で勝ち、韓国には0-0で引き分けましたが、この2試合とも日本は3-3-4システムで戦っており、従来の日本ではあり得ないかなり攻撃的なシステムで結果を出したと言えます。

今までの日本は決定力不足が最大の課題でした。そこで攻撃的なサッカーを得意とするザッケローニ監督に決定力不足解消を期待したいと思います。

2011年1月にカタールでアジアカップが行なわれます(この会誌が届く頃には開幕していると思います)。当然日本は優勝候補の一角で強敵となるのは韓国とオーストラリア、それに続くのが中東諸国になると考えられます。問題はメンバーです。通常W杯やヨーロッパ選手権、アジアカップなどは、欧州リーグのシーズンオフの6月から7月(欧州リーグは8月下旬から9月上旬に開幕し5月上旬に閉幕します。)に開催されるのですが、今回は1月で欧州リーグのシーズン中です。もし欧州組が招集できなければ(この条件は韓国・オーストラリアも同じ)勝負の行方は混沌とします。でも目標は優勝で、優勝以外であれば準優勝であってもベスト8であっても同じです。ザッケローニ監督にはどのような状況でも攻撃的なサッカーで新しい日本サッカーの礎を築いてもらいたいと期待しています。

真空管アンプの楽しみ

宮脇 裕二（昭和55年入局）

寒い冬には、暖かい光を放つ真空管アンプで音楽をゆっくりと聴いてみるのはいかがでしょうか。暗闇でほのかに光る真空管の明かりはムードも満点です。今回はそんな真空管アンプのお話です。

そもそも、オーディオに使われる真空管には、出力管（大きなサイズ）、電圧増幅管（小さくてガラスからいっぱい足の出ているもの）、整流管（交流を直流にするとき使うもので、ダイオードで代用できます）の三種類があります。メインアンプにおいて音色を主に決定するのは出力管で、これが最も重要になります。出力管も直熱管とビーム管に分けられ、300B,2A3,845,EL34,KT66,KT88,6L6,など多くの種類がありますが、それはとにかく置いて、いかにまずアンプを入手するかからもっと具体的な話を始めたいと思います。一番早いのは新品のアンプを購入することなのですが、価格はピンキリです。一番安いものでテクソルのミニアンプTEC-AMP10（29800円）がありますが、残念ながら音はまだ聴いたことはありません。高いものでは、この前のオーディオフェアに出ていたMcIntosh MC2301などは片チャンネル300Wで、非常にいい音で鳴っていましたが、2台で300万円はいかかなものかと。より現実的にはTriodeというメーカーのアンプがいろいろな種類出ていて大体20万円クラスです。このメーカーのTRV-845SEというアンプは48万円しますが、38kgの重量と845という巨大な出力管が圧巻でいかにも戦艦と言った感じです。フェアで聴いたときの感想は押し出しのきく迫力十分の音といった感想でした。私が今一番欲しいアンプの一つです。

次にもう少し予算をかけたくない場合は中古アンプを選択するという手があります。中古ですから学生時代にあこがれであったアンプを手に入れることができます。中古ショップも日本橋や京都のハイファイ堂といった専門店、その他にリサイクルショップのハードオフなどで気長に探せば良い出会いがあると思います。

真空管アンプの王者と言えばMcIntoshのMC-275ということになるかと思います。大きな出力管K T-88を縦に4本配置し、トランスもそれと平行に並べると言ったデザインも卓越したもので、多くの方がそのコピーを作成したと言われており、後に復刻版も発売されたようです。しかし有名であるが故に、中古価格もかなりなもので、このアンプにかなり愛着のある方以外はあまり薦められません。むしろ一つ下のMC-240の方がいいかと思います。それ以外には昔の国産の真空管アンプにいいものが多いです。管球アンプ老舗のLuxmanには多くのアンプがあり、A-3700,A-3600,MQ-60などは10万円前後で買うことができます。また関西の老舗UESUGIも外せません。ここのアンプは内部配線の美しさが有名で、音質もそれに見合うかのような優美な感じです。新品もそれほど高くありませんし、何よりいいのは、中古でも修理を完全に対応してくれることでしょうか（Luxmanも同様ですが）。

次に少し時間はかかりますが、半田ごてを持って、キットあるいは本に載っている実体配線図や配線図から自作する方法があります。後者はマニアに成ってからでいいと思いますが、キットで手軽にいいアンプを廉価で作成することができますし、ものによっては自分で出力管を差し替えて楽しむこともできます。キットを扱っているメーカーは、関東にサンオーディオ、三栄無線などがあります。特に三栄無線はかなり安く、部品も良いものを使っており、3万円台から商品があります。最後に自分だけの究極のアンプが欲しいとなれば自作以外ありません。しかし自信の無い方はガレージメーカーに作ってもら



写真1

(12)

うことも可能です。私は芦屋のベルステレオというメーカーで作ってもらったのですが、真空管、トランス、コンデンサーはこれを使ってと頼み込んで作ってもらったアンプをもう10年以上一回の故障も無く使い続けています。このメーカーは一度東京に行ってしまったのですが、最近また芦屋に戻ってきたようで、社名もサウンドメイツに変更されたようです。

以上管球アンプについていろいろ書きましたが、オーディオ放浪の末たどり着いている今の私のメインシステムは以下になっております(写真1)。この先変更の可能性十分ありますが、今回はもっと具体的な情報をとのご意見をいただきましたので、このような形で終わらせていただきます。次回はスピーカー編でも。

メインアンプ：WE-300Bpp (ベルステレオ) 写真2

プリアンプ：LNP-2L (Mark Levinson) 写真3

スピーカー：WE-755A

CDプレーヤー：Accuphase DP-700

アナログプレーヤ：Micro-1500



写真2



写真3

文中のメーカー、ショップのホームページなど

TecSol: <http://www.tec-sol.com/>

McIntosh: <http://www.mcintoshlabs.jp/>

ハイファイ堂: <http://www.hifido.co.jp/>

Hard-Off: <http://www.hardoff.co.jp/>

トライオード: <http://www.triode.co.jp/inquire/index.html>

Luxman: <http://www.luxman.co.jp/>

上杉研究所: 上杉研究所 西宮本社 〒662-0066兵庫県西宮市高塚町1-1

サンオーディオ: <http://www2.big.or.jp/~sunaudio/>

三栄無線: <http://www2.ocn.ne.jp/~san-ei/>

サウンドメイツ: <http://www.soundmates.jp/>

お知らせ

堺市行政の区画整理に伴い頼会長のクリニックの住所表示が以下のように変更になります。

医療法人頼整形外科クリニック

〒501-8004 堺市北区蔵前町3丁2番8号
(以前は、堺市北区蔵前町1226番地1)

申し訳ありませんが、送付の封筒の住所はしばらく以前のものを使わせていただきます。5、6年は以前の住所表示で郵便物は届くそうです。

市整会会報原稿募集

内容はどの分野のものでも結構ですので、皆様どしどしご応募お願いいたします。

送付先は広報担当の宮脇宛にファックスかメールでお願いいたします。

みやわき整形外科クリニック

Fax : 0798-41-7205

Mail : hcl05003@bca.bai.ne.jp

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

楯 市整会副会長の巻頭言にありますように、今年も我々整形外科開業医を取り巻く医療情勢はますます厳しさを増しそうです。民主党政権にはもっと『品格のある政治』をぜひともお願いしたいところでもあります。

市整会新入会6名の先生方には自己紹介文どうもありがとうございました。これからも末永くお付き合いよろしくお願いいたします。

西澤先生のご報告から盛況に終了した家族会の雰囲気を感じていただければ幸いです。また木下先生からはサッカー日本代表、新生ザックJapanへの期待を書いていただきました。次号はアジアカップの木下流分析をお願いしたいところです。

広報委員といたしまして、ホームページとともに会員の先生方に有益な情報を発信して行くつもりですので、本年もご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。(広報：宮脇裕二)